

様式2 令和5年度 清瀬市立清明小学校 学校評価表

学校教育目標 明るく豊かな心をもち 進んで学ぶ児童の育成 ○よく見つめよく考える子 ○親切で思いやりのある子 ○健康でたくましい子		育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動
目指す学校像(ビジョン) 皆(子供たち、教職員、地域・保護者)が笑顔になれる わが学校 1 子供一人一人が自分らしさを生かして、成長できる学校 2 教職員の個性や能力が発揮され、やりがいと誇りをもてる学校 3 「わたしたちの学校」と誰もが誇りに思い、保護者や地域と協働して子供を育てる学校		・自分も他の人も大切にし、お互いに助け合う児童及び主体的に学習に取り組む児童の育成 ・児童の基礎的・基本的な学力を保障するための授業改善の実施 ・地域の構造的・人的教育力を生かした教育活動を展開 ・持続可能な社会づくりに向けた教育活動の実施 ・NPO法人と連携した補習学習「パワーアップタイム」の実施
目指す児童・生徒像 1 学習の基礎基本を身に付け、主体的に学び、自分の思いや考えを伝えられる子供 2 自分も相手も大切にできる気持ちを、言葉や態度で表すことができる子供 3 互いに協力して活動し、よりよい学校生活を創り出す子ども子供 4 すずんで運動に親しみ、よりよい生活習慣を身に付け、心身共に健康な体をつくらうとする子供 5 何ごとにも根ばり強く取り組み、最後までやりぬく子供 6 地域の一員であるという自覚をもって行動する子供		
目指す教師像 教育公務員としての自覚をもち、公正・誠実・謙虚な態度で信頼される言動ができ、常に児童と共に歩み、共学、共働、共遊で人間関係を深め、児童理解に努めることができる教職員。		

前年度までの学校経営上の成果と課題
 ・基礎的・基本的な学力の定着に向け、朝学習やパワーアップタイムの指導内容を見直し、年間計画を作成することができた。また、全職員での校内研究の実施により、児童一人一人の探求課題を大切にすることができた。
 ・基礎的・基本的な学習内容の確実な定着が喫緊の課題である。教員が課題を自分事として捉え、課題に対し学校全体で組織的に指導を行う体制をつくる。

柱	具体的方策	自己評価		学校関係者評価	次年度以降の改善方策	
		評価	課題及び次年度以降の改善方策(案)	学校関係者による「自己評価」についての評価	学校関係者評価の結果を踏まえた改善方策	
確かな学力の向上	毎時間めあてを明確に示して、分かりやすい授業を実施する。児童全員の知識・技能を定期的に把握をする。	4	2	毎時間のめあてを明確に示した、授業を行い、学習内容が分かるような授業を実施するよう努めた。児童全員の知識・技能を診断シート等で把握しながら、指導の改善を図ったが、学習内容の定着率の目標を達成することができなかった。授業のめあてがどれだけ達成できたか自己評価の時間の設定や教材・教具の提示の仕方の工夫が必要である。	パワーアップタイムで、かけ算九九で遊んでいた児童のために、かけ算九九だけを特訓する日を設けたら効果的だった。	毎時間のめあてを明確に示した授業を引き続き行う。また、具体物の提示や図や表の活用を行い、思考を整理する活動を丁寧に指導しながら、分かりやすい授業を実施する。毎時間、授業のめあてがどれだけ達成できたか確認し、必要に応じ、授業計画の修正を行う。また、診断シート等も活用し、授業改善を行う。
	具体物の提示やICT機器の活用、話し合い活動を取り入れるなど、児童の実態に沿った指導の工夫を行う。また、児童が自己の学習について振り返る時間を設ける。	4	4	一人一台端末のドリルソフトを活用し、基礎的・基本的な内容の習熟につながった。ICTの授業での活用について学期に1回程度教員向けの研修を実施した。個人差があるので、さらに研修を積み重ね、ICT活用能力を高める必要がある。	授業を参観したところICTの活用の仕方が素晴らしいかった。また、ICT活用もバランスが適切である。中学校では、マット、跳び箱の指導で動画として活用している。	一人一台端末のドリルソフトを活用し、基礎的・基本的な内容の習熟につなげる。ICTの授業での活用について今後も教員向けの研修を実施する。児童の実態に合わせて、学習方法を考える。児童が学習に振り返る時間を設け、次の学習につなげられるようにする。
豊かな心の育成	自己の存在を他に示す行為である「返事」。他者との心の交流の表れである「挨拶」。他者への思いやりの気持ちを表す「後始末」。この三つの指導の徹底を図る。	3	3	返事や挨拶は、教員からの問いかげや挨拶をした場合はできている児童が多いが、自らすすんでということに関しては課題がある。また、後始末に関しては、机など学校の物に落書き等をするなど、十分にできていない面がある。児童に折あることに担任を通してや学校全体で投げかけるなど、働きかけがさらに必要である。	教員への挨拶はできているが、地域の方への挨拶は、できている児童もいるが、個人差が見られる。	「返事」「挨拶」「後始末」に関し、折あることに児童に学校全体で投げかけるなど、働きかけを強めていく。特に挨拶に関しては、教員が率先垂範するとともに、児童会活動に位置付け「挨拶運動」を行うなど、教員だけでなく児童が主体的になって啓発する。
	学期2回以上のアンケートやいじめ防止対策委員会を開催し、いじめの、早期発見、早期解決を図る。また、年2回実施のアセスを活用し児童の学級での様子を把握する。	4	4	いじめ及びそれに類推される事態が発生した際には、校内のいじめ対策委員会を中心に早急に対応を組織的に行った。また、定期的なアンケートと聞き取りがいじめの予防及び早期発見につながった。併せて、アセスの活用で、児童の様子を客観的に把握し、児童理解や学級指導に生かすことができた。	長期休業中の後など中学校では年に5回行っている。清明小学校でも、長期休業後には自殺予防に特化した内容のアンケートを行っている。	定期的なアンケートと聞き取りがいじめの予防及び早期発見に務める。長期休業中後には、今年度取り入れた自殺防止のアンケートも実施する。いじめ及びそれに類推される事態が発生した際には、校内のいじめ対策委員会を中心に早急に対応を組織的に行う。また、アセスの活用で、児童の様子を客観的に把握し、児童理解や学級指導に生かす。
健全な体の育成	養護教諭や栄養教諭と連携して、健康学習を年間4回以上実施する。また、毎日の給食指導や年間2回以上の食育授業を通して、正しい食習慣を確立する。	4	3	ほぼすべての学年で栄養教諭による食育に関する授業を行うことができた。毎日栄養教諭が、給食時間中に献立や栄養栄養について、各学級を回り指導した。食事のマナーについても指導してくれているので少しずつ身に付けている。養護教諭と栄養教諭の健康学習は実施できていない。次年度はできる範囲で実施する。	給食試食会をぜひ実施してほしい。保護者は大変興味をもっている。例えば野菜作りをするなど、子供が食事作りに関与させると食育がさらに充実する。	栄養教諭による食育に関する授業を年に2回以上行う。引き続き、栄養教諭が、給食時間中に献立や栄養栄養について、各学級を回り指導を行う。養護教諭と栄養教諭の健康学習を実施する。また、給食試食会も実施していく。
	体育科の授業を始め、新体力テストの結果も参考にしながら指導の改善を図る。また、学校だけでなく運動の日常化と生活習慣の改善について掲載する。	3	3	昨年度、体力テストの結果、力強い動きと巧みな動き、柔軟性に課題があったので、そのような力を日常の遊びの中で高められるように校庭に場づくりをした。多くの児童が積極的に取り組んでいた。しかし、今年度の体力テストではまだ昨年度と同じ課題が見られたので今後も道具の使用の仕方や宿題を工夫し確認しながら運動の日常化をしていく。	運動会は、全体的に児童がきびきび動いていて素晴らしい程度に、地域には、元オリンピック新体操選手など、人材が眠っている。活用していくとよい。小中との連携もあるとよい。	体力を日常の遊びの中で高められるよう次年度もさらに校庭に運動に親しむ場を設置する。また、児童が体力向上できるよう運動量を増やすなど授業改善も行う。グスタティーチャーや地域の人材を活用し、出前授業を実施するなどして運動に対する興味関心をもたせる。
特別支援教育の充実	特別支援教室と連携して、ユニバーサルデザインなど児童の実態を考慮した教室環境についての情報共有を学期に1回以上行い、環境整備を行う。	3	4	教室の壁面に関して、ユニバーサルデザインを考慮した掲示方法をとった。今後はさらに、教室環境に関連するユニバーサルデザインを「清明スタンダード」の中で確認し、学校全体で取り組む項目を検討する。	教室の壁面をスッキリさせるなど、多くの教室で意識して取り組んでいた。	ユニバーサルデザインを考慮して教室環境を整える。次年度は、教室環境に関連するユニバーサルデザインを「清明スタンダード」の中で確認し、学校全体で取り組む項目を検討し取り組む。
	特別支援教室担任等と連携し、児童の実態を適切に把握するとともに、教員間で情報を共有し、個に応じた支援方法や指導を充実させる。	3	3	計画的に進めた校内委員会や必要に応じて特別支援教室担任との連携を密に行い、個に応じた支援を充実させることができた。一部の児童に関しては物理的に体制を取るのが難しい面もあった。次年度は、知的障害特別支援学級の新設に伴い学級との連携のあり方も検討し、さらに連携を深めていく必要がある。	すくよくよやってくださっている。保護者の特別支援への理解が課題となっている。中学校では毎週支援委員会を開き、情報共有しているが、小中でも共通の支援ができるよう、情報共有し連携することが重要。	引き続き、特別支援教室担任と学級担任と連携を密に行い、個に応じた支援を充実させる。校内委員会も、定期的に学年を割り当てて行い、すべての学級で個に応じた指導ができるようにする。次年度は、知的障害特別支援学級の新設されるので、連携のあり方も検討し、さらに連携を深めていく。交流及び共同学習が効果的に実施できるように連携を深めていく。
本校の特色	地域の豊富な教材を活用し、体験的な活動を取り入れることで、児童が設定した課題について探究する学習を展開できるような授業改善を行う。	4	4	生活科や総合的な学習の時間、社会科等を中心に地域資源を活用した学習を実施することができた。体験的な学習を通い、より実感を伴った学びを行うことで、児童がよく意欲的に自分が立った学習課題を探究することができた。次年度も引き続き行い、探究学習の充実を図る。	人手の問題でできないものもあったが、無理をしない程度に、最大限取り組み、昨年度よりさらに活動が広がった。協力していただいた方も、子供たちから元気をもらった。あくまでもボランティアなので無理しないよう今後も行っていく。	学校地域支援本部等と連携し、生活科や総合的な学習の時間、社会科等を中心に地域資源を活用した学習を実施する。体験的な学習を通い、より実感を伴った学びを行うことで、探究学習の充実を図る。
	地域の教育資源を活用した学習を全学年で2回以上行い、地域に親しみをもたせる。また、今あるものをよりよく未来につなげる心を育成する。	4	4	学校地域支援本部との連絡会を学期に1回設定したことで、地域資源を活用した学習について連携をとりながら進めることができた。9割以上の児童が有意義だったと実感している。ボランティア申請書の活用によりスムーズにやり取りができた。全学年で2回以上地域の教育資源の活用ができた。次年度も継続していきたい。	学校地域支援本部の活動についての発信のため、HPを立ち上げた。今後も積極的に、活動を広げていく。清明林では、ナラ枯れが生じ、どんぐりが少なくなってきた。教室環境とさらに自然環境も整えたい。体験型の避難訓練もできるとよい。	地域支援本部との連絡会を学期に1回以上設定し、地域資源を活用した学習について連携をとりながら進める。地域人材を積極的に活用することにより、児童が地域に親しみをもち、地域の伝統や文化、自然を未来につなげていくことを心育成する。